

肝炎相談支援センター

■ スタッフ

センター長	中川 勇人
副センター長	爲田 雅彦
医師 常勤	1名
併任	1名

■ 特色・診療対象疾患

当センターは平成 20 年に始まった国の肝炎対策事業とともに、各都道府県による肝疾患診療連携拠点病院として認定されたことを機に、平成 21 年 1 月に三重大学病院内に設置されました。

肝疾患連携拠点病院は肝疾患に係る一般的な医療情報の提供、都道府県内の医療機関等に関する情報の収集や紹介、医療従事者や地域住民を対象とした研修会・講演会の開催や肝疾患に関する相談支援、疾患に関する専門医療機関と協議の場の設定を目的として活動を行っています。

当センターでは主にウイルス性肝炎である B 型肝炎、C 型肝炎に対する対策を行っており、院内院外の医療スタッフ、患者さんやその家族からの相談などに対応することを主に行っています。

■ 活動実績

1. 肝炎相談業務

当センターでは肝炎に関する相談窓口として、「肝炎ご相談ダイヤル」を開設しています。基本的には医師が直接相談を受けるようにしており、専門的な質問に対しても詳しく丁寧に説明できるように努めています。2020 年度以降の相談件数は 14 件、15 件、10 件、17 件と推移しています。

2. 肝炎医療コーディネーター養成研修

肝炎医療コーディネーターとは、肝炎患者等が適切な肝炎医療や支援を受けられるように、医療機関、行政機関その他の地域や職域の関係者間の橋渡しを行うことを役割としており、各都道府県で養成研修が行われています。三重県では当センターが主催して開催しており、2023 年度はオンラインで開催し、40 名を認定しています。

3. 市民公開講座

当センターでは日本肝臓学会との共で、一般市民

を対象に、肝疾患の病態と最新治療をわかりやすく説明する事で、病気について正しい知識をつけていただくとともに、現在行われている治療について理解を深めていただくために市民公開講座を開催しています。

2023 年度は 7 月 28 日の世界肝炎デーに合わせて、日本肝臓学会が全国 5 カ所で一斉開催する市民公開講座を中部地区を代表して開催しています。また、11 月には肝がん撲滅運動の市民公開講座も開催しています。どちらもハイブリッド形式で開催し、現地、オンラインともに多数の市民の方々に参加していただきました。

4. 肝炎拾い上げ

三重大学病院ではウイルス性肝炎のスクリーニング検査である HBs 抗原検査もしくは HCV 抗体検査が初回陽性となった場合に、電子カルテ上に注意喚起を促す機能があります。当センターでは、院内において本機能の周知を促すとともに、陽性者に対して確実に肝臓専門医への受診が行われるよう確認を行っております。

また、化学療法や免疫抑制剤によって発症する B 型肝炎の再活性化対策についても薬剤部と共同で行っています。

■ 今後の展望

日本国内においては依然として B 型肝炎、C 型肝炎に感染しているものの治療をうけていない方々が多く存在します。当センターでは病院に受診される患者さんのみならず、市民の方々にも肝炎の啓蒙を行い、肝炎検査の受検率向上に努められるよう、次年度以降も活動を行う予定です。特にこれまで行ってこなかった集客施設やイベント等での周知の機会を増やす予定です。

WHO は 2030 年までに世界からの B 型・C 型肝炎新規感染をなくすことも目標としており、当センターではこれらの目標の達成に向けて活動を行っていきます。

https://www.hosp.mie-u.ac.jp/bumon/kanen_shien/